

令和7年度合志市歯科保健連絡協議会（議事録）

日 時：令和7年8月8日（金） 13：30～15：00

場 所：ヴィーブル会議室

出 席 者：南川歯科医師、竹内歯科医師

那須歯科医師、三隅歯科医師

宮崎養護教諭（西合志第一小学校）

橋爪養護教諭（合志楓の森中学校）

古賀園長（市認可保育園連盟会）

木下歯科衛生士（歯科衛生士会）

上田歯科衛生士（菊池保健所）

佐々木主事（学校教育課）

有田主事（健康ほけん課）

事 務 局：西本課長（こども家庭課）、溝部主幹、堀

欠 席 者：村山歯科医師

1 開 会

2 挨 拶

こども家庭課長挨拶

3 委員紹介

（各委員・事務局より自己紹介。）

4 議 題

(1) 令和6年度歯科保健事業実績報告

(2) 令和7年度（2025年度）歯科保健事業実施状況について

(3) 小中学校フッ化物洗口実施状況について

(4) 令和8年度歯科保健事業実施計画について

【意見交換】

委員：小中学校でのフッ化物洗口はいつ頃から始めているのか。週に1回実施しているのか。

委員：毎年5月の大型連休明けから開始しており、フッ化物洗口は週に1回実施している。

委員：基本小中学校では歯磨きをしているのか。コロナになってから学校で歯磨きをしていないとも聞いている。フッ化物洗口が始まっても歯磨きをしていないと意味がない。

委員：歯磨き指導は学校によって異なる。

委員：コロナ禍は中止していたが、5 類に移行してからは磨きたい人が磨く体制をとっている。
以前のように給食後の全体での歯磨きまでは至っていない。歯磨きはしたい人がしている状況。

委員：本校では歯磨きの時間がある。今、話があったように、学校それぞれの実情があるため、学校の状況に合わせて実施している。水道の数など限りがある。

委員：フッ化物洗口はどのタイミングで実施しているのか。

委員：各学校によって異なる。資料 3 を見ていただきたい。
学校行事等で実施できない場合はその週内で代替日を設けてもらっており、基本的には 1 週間に 1 回はフッ化物洗口を実施出来るようにしている。

事務局：先日圏域の会議の中で合志市の小中学校のフッ化物洗口が称賛されたと伺っている。
どのような点を取り上げられたのか詳しくお聞きしたい。

委員：管内の小中学校では実施回数が 30 回に満たない学校があるが、合志市は年間 30 回後半実施をしていただいている。実施回数を増やすために工夫されていらっしゃるということを会議ではお話をさせていただいた。回数の確保の工夫点があればお伺いしたい。他市町は 6 月から実施されているため、実施回数が減ってきている。開始時期を早めるための工夫や学校の協力体制についてお聞きしたい。

委員：洗口補助員の歯科衛生士が学校教育課に所属していることが 1 番大きいと考えている。
基本的には小学校 1 年生、中学校 1 年生のみフッ化物洗口の調査をしている。それ以外の児童生徒は去年までの結果を引き継いで行なっていただいている。中止をしたいという申し出があれば中止をしている。
また年度当初に学校の一斉メールで、フッ化物洗口の開始を保護者に連絡している。希望調査をとるのが新 1 年生のみにしているため、集計がしやすく、5 月の大型連休明けからの開始が可能になっていると考えている。

委員：以前は学校でフッ化物洗口の希望調査をとっていたが、今は学校教育課にしているため、その手間がない。そのため 5 月の大型連休明けにはフッ化物洗口が始まっている。

委員：少し前から紙での提出ではなく、QR コードからオンラインでフッ化物洗口の可否を調査している。そのためデータで管理できるようになり集計が早くなった。

委員：スライド 6 の令和 6 年度 1 歳 6 か月児健診の受診率が下がっている。考えられる要因はなにか。

事務局：健診に関しては、人で追っていないため転出入の関係等でズレが出てくる。未受診の方には必ず電話をして2歳までには受けてもらうようにしている。例えば、本来令和5年度に対象だとしても、令和6年度に健診を受診されると令和6年度を受診者としてカウントしている。コロナ等に関係なく、必要なアプローチは出来ている。

(スライド13)

事務局：今年度から1歳6か月児健診会場でのフッ化物塗布を再開した。まだ4～7月分しか集計出来ていないが、塗布の実施率が67.6%と市で想定していたものよりも低くなっている。ただフッ化物塗布を希望しない人の理由をみると、歯科医院で塗布をしている方が56人おり、塗布時期の関係で健診会場でのフッ化物塗布が出来ない人がある。フッ化物塗布未実施者を含めると95.1%と参考のデータを載せているが、コロナの流行前と同じくらいの数字にはなっている。

今後はフッ化物の効果がわからない、理由の記載がない人にアプローチが出来るのではないかと考えている。

1歳になられたときに歯科医院で利用できる歯っぴいカードを配布している。これが令和4年度から始まった事業になる。2回歯っぴいカードで塗布をした終了後も継続して歯科医院にフッ化物塗布にくる方は増えたという印象はあるか。

委員：当院に関しては増えたと感じている。

委員：当院も前よりは増えたと感じている。前と比べて大きく増えた感じはない。健診会場でのフッ化物塗布はどのような理由で再開されたのか。来ていない人に行ってもらうには健診会場でフッ化物塗布が効果的だが、来ていない人に機会を与えることで始められたのであればあまり来ていないと感じている。

(スライド12)

事務局：フッ化物塗布の受診者しか出していないが、受診率は1回目が約6割程度で、4割の対象児は使用していない。従来から二極化が進んでいて、熱心な方は歯っぴいカードがなくても歯科医院には行かれると思うが、それ以外を拾い上げるために1歳6か月児健診でのフッ化物塗布を始めている。菊池圏域でみても、1歳6か月児と3歳児の両方でフッ化物塗布をされている市町もある。合志市としても対策をしなければということで、1歳6か月児健診でフッ化物塗布を始めた一因でもある。3歳児健診ではまだ実施出来てはいないが再開できればと考えている。

委員：歯科医院に来る人も2回目に来る人は少ないと感じる。継続しないと意味がないため、せっかく期間を延ばすのであれば、周知をしっかりともらいたい。

事務局：啓発に関しては、SNSが保護者の情報を手に入れる手段で多いことから、合志市子育てアプリKokoaを活用していきたいと考えている。現在登録の方が一千人を超えている。お子さんの生年月日や出産予定日を入力すると成長の記録が残せるものになる。アプリにお子さ

んのお誕生日を入れていただいた保護者に関しては、期限終了の半年前に「2回目受けましたか？」等のプッシュ通知がくるように今年度中にできればと考えている。良かったら合志市以外の方も登録が出来るので、ニックネームや出産予定日を入れて試してみてください。

委員：3歳児でも以前はフッ化物塗布をされていたということで、早く3歳児で塗布をしていただけると歯がしっかり生えているので、今後保育園の4、5歳でのフッ化物洗口の導入に入りやすくなると考えている。フッ化物洗口未実施園は「うちはフッ化物洗口をしないんですか？」との保護者からの声も出ると思う。出来れば3歳児健診でのフッ化物塗布を早めに再開していただいて、フッ化物塗布の経験をさせてもらえると保護者の考えも変わると思う。実際保育園で歯科健診をすると、1歳児はほとんどむし歯がなく、3歳児で多くなっている。小学校に上がる前までは保護者も一生懸命仕上げ磨きをされていたためむし歯が減ってきている。小学校に入ってからむし歯が増えると聞いている。園での指導時に仕上げ磨きの話を保護者にしていただくので、早めに保護者も聞けて良いのではないかと考えている。

事務局：合志市での健診は近隣の市町村と比べると対象児が多くなっており、13時からの受付で最後の方が帰られるのが16時頃までかかっている。いかにスリム化していくのかも健診の課題となっている。健診会場でのフッ化物塗布も体制を整えていく努力は前向きにしていきたい。

(スライド14)

事務局：昨年度の協議会でも課題として挙げた保育施設でのフッ化物洗口実施率だが、未実施園が今年度8園で、いずれも同じ園が実施出来ていない状況である。どのような方法だと実施していただけるか。負担感はあるか。

委員：フッ化物洗口は毎年しているため負担感はない。ただ当園では年長しか実施していない。仮に4歳児も実施すると飲み込んでしまう等の不安がある。

当園はフッ化物洗口を5月から始めている。毎年始める前にはうがい練習をしているが、そこまで負担感はない。

フッ化物洗口を実施していない園は負担感や不安感があってしていないと思う。昨年度園長会で市からフッ化物洗口の話をして、実施園から負担はないという話は上がっている。

事務局：今年度は未実施園に直接アプローチをして、1園でも増加できたらと考えている。

事務局：理事長や園長先生、嘱託歯科医の先生の意向もあると伺っているところで中々難しい部分がある。今年度協力依頼で伺いたいと考えている。

事務局：菊池管内でフッ化物洗口の実施率が高い市町の要因はご存知か。

委員：今の実施率になるためにどのような対応をされたのかまでは詳しく把握をしていないが、

園自体が合志市は多いため、実施率が低い一因ではあると考えている。

管内の市町だとそもそも薬剤の持ち込みを拒否される園もある。このような園に対してはアプローチに限界があると考えているが、合志市は説明等を実施できる可能性があれば今後増える見込みがある。合志市は昨年度に比べて2園増えているので期待している。

委員：歯周疾患検診についてですが、毎月請求書と同時に市控えの問診票も送っていただいている。問診票の下には治療状況を記載する欄がある。後日治療の欄にしているものは市でも拝見しているが、実際その後治療にきていただいているのか、数として把握されていれば教えていただきたい。

委員：多くは治療に来ている。保険診療の関係で当日治療を行っていないだけで、後日治療になった方は基本健診後にそのまま予約される。当日治療を実施出来ていないだけで、その後は受診していただいている。稀にかかりつけ医が合志市外の方がいるが、基本的には受診される。来ないという方はいない。

委員：当院も同じで後日治療に来ている。歯周疾患検診の通知を持ってきている人は定期的に通院している人が多い。これまで歯科医院に行っていなくて、歯周疾患検診の通知文を持ってくる人は少ない。意識が高い人の方が受診している。

委員：約9割が治療に繋がっている。残り1割はもともとかかりつけ医があったり、口腔内の状況を見てもらうだけの人もいたりする。

委員：当院も治療に来ている。中には結果を知りたいだけで受診される方もいる。そのスクリーニングで結果が悪いとなると後日治療に繋がっていると思う。詳しい数値までは把握していませんが他の歯科医院と同じだと思う。

(スライド4)

事務局：1歳6か月児でのむし歯の有病率が減少傾向であったが、今年度増加した。7か月児健診から1歳6か月児健診の間が1年近くあいている。この間でむし歯対策が出来ないかと考えている。7か月児健診で保護者の方に指導をされているが、他の市町と比べて特性や傾向があるのか。

委員：7か月児健診の時点では大きな差はない。きょうだいがいると、かかりつけ医がある人はいる。7か月児健診では、1歳で歯っぴいカードが送られてくることを指導時に伝えており、この機会にかかりつけ医を持ちましようと話している。そのため1歳6か月児では約半数がかかりつけ医がある。昨日の1歳6か月児健診でも、約半数が健診会場でのフッ化物塗布が出来なかったが、理由としては定期的に歯科医でフッ素塗布を受けていますと伺っている。中にはかかりつけ医がない方もいたので、この機会に見つけてみてはと話をした。

事務局：今後歯っぴいカードの周知は強化していきたいと考えている。

委員：スライド 12 の歯っぴいカードの受診者のデータは、1 回目と 2 回目を受診した人は重複しているか。

事務局：年間で実施している人を出しているため、重複していない。年度をまたいで実施している人もいらっしゃるかもしれないが、1 回目、2 回目と年度で分けている。

事務局：夏休み前に出されている治療のむし歯勧告書は、むし歯がある人の返答率や受診率の変化があるか。

委員：本校では治療が必要なむし歯をもっている生徒が 10 人弱しかいない。むし歯がある生徒が少ない理由としては、定期的に健診に行っている生徒が多いと考えている。むし歯がなくても、全員に通知をしている。むし歯がなくても歯科医院に行きましたとお便りを返していただくことが多いため、定期的に歯科医院に行っていると思う。しかしむし歯は少ないですが、歯垢がある人が多いと思う。歯周疾患検診の受診率をみても、歯茎を大事にしないといけない時期が中学生になるので、保健日より等で情報発信していく。

今日お話ししようと思っていたことが 1 つある。小学校ではブラッシング指導があるが、本校では実施していない。以前菊池市で勤務していた中学校ではブラッシング指導があった。合志市の中学校でも希望したら来ていただけないか。

委員：歯科衛生士の人数が足りておらず、人員確保が難しい現状。私も中学校でブラッシング指導を実施した方が習慣もつきやすいと考えている。人員が確保できれば実施していきたい。

委員：学年ごとに区切ったら出来ないか。

委員：学校教育課に歯科衛生士が 3 人いるものの、実施するとなると 15 人くらい確保したい。

委員：歯科衛生士会では 1 クラスに 2 人 1 組で実施をしている。流れとしては、まず赤染・ブラークを染め出す。次に学年ごとに応じて歯磨きのやり方やポイントの講話、最後に早期治療と定期健診について話をする。

委員：課題も変わってくるので、中学生の時に 1 回でもブラッシング指導を実施していただけたらと思う。20 歳の時に歯周疾患検診もあるとのことだったので、中学生の時に 1 回アナウンスしておく生徒も頭の隅にも残ると思う。合志市は大規模校も多いため、少ない学校からブラッシング指導を実施していただきたい。

委員：学校教育課の歯科衛生士にも相談しましたが金曜日の午前中しか空いていないとのことだった。現状では空き時間がないため、再度相談して前向きに検討していきたい。

委員：1歳6か月児と3歳児のむし歯有病率に差が出ている点に関しては、1点は年齢の問題で、こどもが泣いたり口が開けられなかったり等の現場の問題が出ていると考えている。もう1点は歯科医師側の問題で、学校歯科のむし歯や歯肉炎の基準があるが、自分の感覚でやってしまうとむし歯になる基準が変わってくる。新しく開業される先生も多く、歯肉炎やむし歯の基準が変わっているのではないかと。そうすると歯肉炎や歯並び、むし歯の警告や勧告が変わってくることにも繋がる。長く見ていくと熊本県や合志市の有病率が変わっていく。むし歯になる基準が変わってしまうため、統一しないと、熊本県・合志市のみ増加傾向になる。歯科医師会としてはウェブ等で受講して研修を受けて頂きたい。

6 その他

事務局 来年度の開催時期を8～9月頃考えております。

7 閉会